

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992300016		
法人名	有限会社 ケアコミュニケーション		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	高知県土佐郡土佐町土居1057番地		
自己評価作成日	平成28年9月23日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者様が出来るだけ長く元気で普通の暮らしができるように自立支援に力を入れています。日々の健康管理に重点的に取り組み、脱水症予防と便秘対策で一日が始まります。十分な水分摂取、排泄パターンを把握しトイレでの排泄は、開設時より実施しておりADLの向上や笑顔の源となって、認知症状の改善にも繋がっています。また、事業所内に閉じこもらないように、外出支援にも力を入れています。少人数で職員と共に外食するなど、事業所内では見られない利用者様の一面も見られ、馴染みの関係も深まります。日々の何気ない会話や仕草から利用者様の思いや願いを引き出すように努力しています。利用者様の心に出会い・ふれあい・思いやりを大切にするケアを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3992300016-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3992300016-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年10月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は町の中心部から少し離れた住宅街にあり、利用者は比較的静かな環境で生活している。周辺には散歩に適した道路があり、近くの商店へ歩いて買い物に出かけ、店員や地域住民と挨拶を交わすなど日常的に交流している。職員は一人一人の利用者を尊重し、思いや意向の把握に努め、地域とのふれあいを大切にして、利用者への思いやりのあるケアに取り組んでいる。大半の利用者が85歳以上であり、健康管理を大切に食事の状態、水分量、排泄の状態、バイタルサインのチェックなど、体調の変化に気をつけるとともに、自立した生活が継続できるよう散歩等の外出支援に力を入れている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：つくし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔の絶えない生活を目指します」「その人らしさを大切にします」「生きがいのある生活を支援します」「地域と交流し共に歩み地域の皆様に貢献できる施設を目指します」経営体の理念に掲げ、花みずきの理念として「出会い、ふれあい、思いやりを大切にします」とし実現に向けて取り組んでいる。	「笑顔で、その人に合った生きがいのある生活を支援し、地域と交流し貢献する」という主旨の法人理念を基に、事業所は「出会い、ふれあい、思いやりを大切にします」という理念掲げ、出勤時に理念を確認し、職員会議や介護現場で実践内容を振り返りながら、ケアの向上に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入しており、事業所のイベントの時には地域の方々、ボランティアの方々に参加して頂き交流を深めている。近隣への散歩の時には、こちらから挨拶をすることを心掛けている。地域の方から散歩コースの草を刈ったと親切に声をかけてくれることもあり、日常生活の中で地域との交流を図っている。	事業所は町内会に加入し、地域の一斉清掃に参加している。事業所の夕涼み会には家族・地域住民が10人程度参加している。地区内の散歩道を通って、近くの商店に買い物に出かけ、日常的に近隣住民と挨拶や声かけをして交流している。	事業所の喫茶、誕生日会、夕涼み会等の行事への住民参加について町社会福祉協議会へ相談したり、運営推進会議で議題とし、また保育園児、老人クラブとの交流も検討するなど、地域とのつながりをさらに深めていくことを期待したい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて、認知症についての勉強会の開催を検討している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、ホームの運営状況、現在の取り組み等を報告し意見交換、助言を受けサービスの向上に活かしている。開催にあたってはホームのお便りにて、ご家族への参加を呼びかけている。参加できなかった場合でもご家族の意見が反映されるよう、家族会で出た意見を運営推進会議で発表している。	会議の開催が年3回と少なく、地域代表や家族に開催案内をしているが参加が得られていない。議題は事業所の活動報告と町からの情報提供が中心で、課題等に関する意見交換が少ない。議事録は家族に送付している。	会議は基準省令に基づき年6回は開催し、毎回参加できる地域代表の選任、より多くの家族が参加可能な日時の調整などにより、活発な意見交換が行える体制づくりを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から地元の町村役場、地域包括支援センターに現状を報告、相談し、また運営推進会議開催時に、話し合いを持ち連携を取っている。	地域の4町村から利用者が入居しており、それぞれの町村と相談しやすい関係を築き、情報提供やアドバイスを得ている。運営推進会議には事業所所在地の町職員が参加しており、時には関連町村の職員も参加している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の勉強会を通し、スタッフ全員への理解・認識を徹底して拘束のないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーを設置し、鍵を掛けないようにしている。	身体拘束廃止委員会を中心に、常に拘束のないケアの理解と推進に努めている。玄関は昼間施錠せず、外出傾向がある利用者には担当職員を決め、いつも利用者を視野に入れてケアにあたるようにし、外出のある時は寄り添って束縛のない支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」を設け、言葉の虐待等にも職員同士で声かけして防止に取り組んでいる。また定期的に職員向けに虐待についてのアンケートをとり、日頃のケアの意識付けになるよう取り組んでいる。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶことができるように研修計画を立て、内容を十分に理解できるように努める。必要がある方に対しては入居時に説明を行い、対応を要すると思われる場合は支援をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、重度化や看取りについての対応や医療連携体制加算についてなど詳しく説明している。又、入居者の方の状態変化により契約解除に至る場合は、本人・家族を交えて対応方針を相談している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の中で意向を聞いたり、言葉や態度、表情などから思いを察するようにしている。また運営推進会議にも参加して頂いている。ご家族には日頃の面会時や、家族会で意見、要望を聞くようにしており、また玄関にご意見箱を設置し、苦情等出しやすい配慮をしている。来所名簿作成、職員紹介名簿を玄関先に提示してほしいとの要望が聞かれ、作成し設置している。	日頃のケアの中で、利用者に希望や要望を聞いている。家族とは電話等で話す機会を作っている。訪問が多い家族には必ず面談し、生活状況を伝え要望を聞いている。毎月、写真を中心にした事業所だよりを送付し、家族とのつながりを図っている。しかし、家族会への参加が少ない。	家族との交流を図り、家族会へより多くの家族の参加を働きかけ、家族の率直な意見を引き出していくことを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回両ユニット合同の全体会を開催し、運営に関する報告も含め、各ユニットで出された意見を協議している。申し送りノートを設置して意見を記入し、それについてミーティングを行い対処している。	月1回、2ユニット合同で職員会議を開催し、職員の提案事項を協議している。また、所内に8委員会を設置し各職員は1～2の委員会に属して、テーマ毎に勉強や情報収集を行い、他の職員への情報伝達や関係する行事の企画立案を行い、運営に生かしている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会を開催し、事業所の報告のみでなく各職員からの提案、意見を聞いている。それについてミーティングを行い対処している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常日頃から、管理者や職員との対話を心掛けている。職場にも出向き、利用者の方々と過ごしたり声掛けを行う事で、職員の業務を把握している。業務時間中の個別の休憩室の確保や、年1回の健康診断の実績、資格取得に対する協力支援など施設は最大限の努力をしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある「あじさいネットワーク」では、認知症を支えるプロジェクト講座等に参加し、勉強会や研修を通じて情報交換を行い、サービスの質の向上にむけた取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は、必ず本人と面会してどんな暮らしをしていたか等の要望や身体状況を確認して、その都度職員に伝え全員把握に努め、対応の統一を図っている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のプライバシーに配慮し、家族が今抱えているつらさや不安をよく聞き、安心感を与えるように努力し、家族のつながりが継続できるように支援している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の方と相談し、ご本人の思いや状況などを確認しサービスの内容を検討している。場合によっては他事業所のサービスにつなげる等の対応を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在の能力を活かし、自分で行うことは行ってもらい、職員は必要に応じて介助したり一緒に行うなど、共に生活する関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と緊密に連絡を取り、相談しながら支援してご家族に意識を積重ねるようにし、必要に応じて相談・対談をすることで支える関係を築いている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで本人の馴染みのあるスーパーや美容院を利用することで、昔馴染みの人に会えるよう支援している。また、家族の面会時の情報から馴染みの関係を把握するように心掛けている。	遠方からの利用者が多く、友人、知人の訪問は少ないが、家族の協力を得ながら、帰宅等に配慮して馴染みの関係継続を支援している。以前からの理美容院を、継続利用している利用者もいる。近くの商店への買い物や、パンの訪問販売業者と新しい馴染みの関係もできている。	入居時の利用者・家族との面談で、馴染みの人や場所、継続したい趣味や、参加していた地域の行事などを、できるだけ聴きだして記録し、継続したい内容を家族、本人に確認し、介護計画にも反映することを期待したい。
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は寄り添いをして、さり気なく仲介して解消している。歌やボール遊び、近隣の公園まで散歩を支援する中で、職員はお互いの伝えたいことを仲介している。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者や、ご家族の方から連絡を取り、様子伺いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中で本人の思いや、どのような暮らしをしたいか、なにを食べたいか等意向を聞くようにしている。また担当者を決めて、職員との信頼関係を強くすることで、思いを表現できない利用者に対しても仕草や行動などから思いを察知できるよう努めている。	暮らしのあり方について、職員は利用者の思いや意向を汲み取り、生きがいのある生活の支援に結びつけるよう努めているが、記録はしていない。新聞を読むこと、飼い猫の世話、買い物、外食、馴染みの場所へのドライブなど、把握できた利用者の希望に応じている。	利用者との日々の関わりの中で、新たに把握した趣味や好みをフェイスシートに追記し、職員で共有することを期待したい。
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の大切さを伝え、生活歴の聞き取りをしている。さらに入居された後もご家族にその都度、聞き取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること出来ない事の把握。出来る可能性や心身の状態の把握に努めるようにし「日々の記録」「申し送り」を通してご本人の現状を総合的に感じ取るようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて各職員からの情報を共有し、また利用者、ご家族の意向を聞き入れながら、多様な視点から協議し介護計画を作成している。	家族及び本人のアセスメントに基づき、計画作成者が素案を作り、家族、本人の要望も聞いて職員でカンファレンスを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。入居後1ヶ月で見直し、その後は3カ月又は6カ月で見直している。計画内容は郵送等により、家族の承認を得ている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録には、小さな事でも変化を見逃さず記録している。バイタルや食事摂取・排泄状況及び言動等を分かり易く記入できる欄を設け、全員が要点把握がしやすくモニタリング評価に活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により突然の外出・外泊・訪問等があっても優先して対応し、本人や家族の満足感につなげている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練を年2回実施し、心肺蘇生の研修等の協力があり、地元町内会の行事に可能な限り参加させて頂いている。また姫流太鼓演奏やギター演奏(音楽療法)のボランティアの方の訪問の機会を設けている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関からかかりつけ医を選択しているが、できるだけ本人及びご家族の希望する医療機関を利用できるよう支援している。受診結果はカルテ、個人別の手帳に記載し管理して職員間で共有している。	本人、家族の希望に沿って、町内や隣接町の協力医療機関をかかりつけ医とし、それぞれ月に1回～2回の訪問診療を受けている。専門医の受診には、家族が付き添っている。受診結果は家族からの報告も含め、記録して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名配置し、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。(24時間対応)		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族と相談しながら医療機関へご本人に関する情報を提供し、医師との話し合いを持ち、事業所内での対応可能な段階で早く退院できるように、医療関係へのアプローチやご家族への支援をしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で重度化及び看取りの指針に関する説明を行い、同意を得ている。ご家族の協力が前提であることを理解してもらい、常時医療行為が必要になる時には、時期の見極めに主治医等と相談・連携を図っている。	事業所における看取りの指針に沿って、事業所において対応できるケアについて説明し、同意を得ている。現在まで事業所での看取りの経験がないため、職員の看取りに対する意識を高める研修等を行い、協力医療機関との連携体制の強化に努めている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催し、急変時、事故発生時の対応を全職員に周知徹底し、胸部圧迫法やAED講習を定期的にホームにて取り組んでいる。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。防災委員会を設置し、災害時の対応について話し合っている。	所内の防災委員会を中心に訓練を企画し、年2回、消防署の協力で防災訓練を行っている。特に夜間想定訓練に力を入れている。全職員が消火器の使用ができるようにし、火気の確認、3日分以上の備蓄用品の確保等を行っている。しかし、地域住民への呼びかけは行っていない。	災害時には住民の協力体制が不可欠であり、地域住民へ防災訓練への参加を呼びかけ、運営推進会議においても、地域との連携体制について協議することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアにおいて、言葉、態度などで利用者には不快感を与えないよう職員に促している。排泄の声掛け、援助時にもプライバシーを配慮し、居室・トイレに入室の際には必ずノック、声掛けしてから入室している。不在時にも扉を閉めてプライバシーを確保している。	所内の教育委員会で接遇について学習し、他職員へ啓発を行っている。トイレ誘導時や日常の言動の中で不適切なケアに気付けば、互いに注意し合うことを心がけている。利用者へは、人格を尊重した呼び方を徹底している。職員教育に努め、プライバシーの確保は出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表し、自己決定できるよう働きかけている。思いを言えない利用者は、表情や全身での反応をキャッチしながら、本人の希望や好みを把握している。(自己決定の尊重)		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶、基本的支援時間は決まっているが、その時間に摂取する必要はなく、本人のペースに合わせている。重度の方は外出が減少傾向だが、場所を選択し、外出、外食と楽しく充実した日々を過ごしている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る物を本人の希望に応じて選んでもらったり、その人らしさを保てるように援助し、本人の馴染みの美容室を利用されている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のケアの中から個々の嗜好など把握しており、メニューの参考にしている。買い物・下ごしらえ・片付け等 残存機能を活かしながら無理のない程度でできることを支援している。職員は同じテーブルで食事をし、共に楽しむことを大切にしている。	食事を楽しめるように利用者の希望を取り入れ、炊き込みご飯や散らし寿司などを栄養バランスにも留意し、よく作っている。利用者は食器洗いや配膳、テーブル拭き等、できる事に参加し、職員は利用者と同じメニューで利用者と一緒に食べている。また、利用者の希望を聞き、外食の機会もつくっている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は個人記録シートに記録し、情報を共有し対応できるようにしている。その習慣や水分量の目標を1日1500 mlに決めて、摂取してもらえよう支援している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて、毎食後口腔ケアを行っている。自立されている方は声掛け見守りをし、出来ない部分を職員が支援している。出来ない人には口腔ケアをしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し排泄支援を行っており、失禁を減らしトイレでの排泄が習慣となるよう支援している。また意志表示の困難な利用者については、個々の排泄のサインを見逃さず誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	布パンツを使用し自立している利用者が数名いるが、多くの利用者はリハビリパンツを使用している。職員は排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を基本にトイレ誘導を行い、失禁を防ぐ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には繊維質の食材、イーージーファイバー、夏場は麦茶をいつでも飲めるようにフロアに設置し、十分な水分補給や運動を取り入れたり、個々のプランに沿って自然に排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ好きな時間で入浴できるように体制を整えている。入浴拒否される方については気分転換等を促し、気持ちよく入浴できるよう工夫をしている。	入浴時間や回数は利用者の希望を優先し、決まった時間に入浴を希望する利用者にも、希望どおり支援している。毎日の入浴を希望する利用者はいない。入浴を拒否する場合は、利用者の気持ちに添って職員間に対応を工夫し、入浴に結びつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を無理のない程度に促し、生活リズムを整えている。寝つけない人には温かい飲み物を進めながらお話をしたり、足の温浴をして眠って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別記録に保管している。服薬時は、本人に手渡して、きちんと服薬できているか確認をしている。処方の変更があった場合は、特に状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に、日常において役割を持っていて、それが張り合いになっているし、楽しめるリハビリ、歌などを行っている。天気の良い日には希望者を募り、ドライブ、外食、買い物と気晴らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園までの散歩、馴染みのスーパー、地元の「道の駅」に出かけたり、個々の希望に沿って支援している。又、家族が面会に来られた時には、時間があれば一緒に外出の機会が取れるよう支援している。	利用者は日常的に庭や近くの公園に散歩に出かけている。公園への散歩では地域住民と会う機会も多く、また、近くにある商店にも良く出かけ、住民と交流している。季節の花見や外食のドライブには少人数のグループで外出しているが、全員揃って外出できる方法を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、自分でお金を持っている方もいる。自分で管理できない入居者様は、グループホームで金銭管理し、買って頂きたい品物は自分で払ってもらおう支援をしている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話で対応している。気になる事が生じた利用者さんは、自ら手紙を書いたり、年賀状、暑中見舞いなど計画を立てて支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせた室温設定とし、定期的に換気したり湿度等にも配慮している。季節を感じられる飾り付けや生け花を置いたり、廊下には利用者が写った写真を貼ったり、心地良く過ごせるようにしている。居間の仕切りを外しスペースを広くしており、利用者同士が懇談し、くつろげるよう大きなソファを置いている。	平屋建ての二つのユニットの居間をつなげ、広い空間にしている。明るい居間でテレビを観ながら、利用者が台所の調理の匂いで家庭的な雰囲気を感じられるようにしている。季節の花や行事の写真を飾り、大きい水槽で泳ぐ金魚や、一匹の飼い猫が利用者の癒しに役立っている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングが一緒になっていて、いつでも誰でも集うことができるし、仲の良い友達同士で談話されている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族と安全面について確認しつつ、本人の使用していた家具や馴染みのある物品等を持参してもらえよう働きかけている。	各居室には、自宅から持参した仏壇、写真、タンス、テレビ、花、洋服掛けなどを置いている。掃除や整頓が行き届き、清潔な居室になっている。季節ごとの寝具や衣類の交換は家族に依頼し、居心地の良い生活空間にしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所に「トイレ」と大きな字で書き、分かり易くしたり、日常時にも安心なスロープを設置したり、安心して気持ちよく生活して頂く工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: たんぽぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔の絶えない生活を目指します」「その人らしさを大切にします」「生きがいのある生活を支援します」「地域と交流し共に歩み地域の皆様に貢献できる施設を目指します」を経営体の理念に掲げ、花みずきの理念として「出会い、ふれあい、思いやりを大切にす」とし、実現に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入しており、事業所のイベントの時には地域の方々、ボランティアの方々に参加して頂き交流を深めている。近隣への散歩の時には、こちらから挨拶をすることを心掛けている。地域の方から散歩コースの草を刈ったと親切に声をかけてくれることもあり、日常生活の中で地域との交流を図っている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて、認知症についての勉強会の開催を検討している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、ホームの運営状況、現在の取り組み等を報告し、意見交換、助言を受けサービスの向上に活かしている。開催にあたってはホームのお便りにてご家族への参加を呼びかけている。参加できなかった場合でも、ご家族の意見が反映されるよう家族会で出た意見を運営推進会議で発表している。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地元の町村役場、地域包括支援センターに現状を報告、相談し、また運営推進会議開催時、話し合いを持ち連携を取っている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の勉強会を通し、スタッフ全員への理解・認識を徹底して拘束のないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーを設置し、鍵を掛けないようにしている。		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「虐待防止委員会」を設け、言葉の虐待等にも職員同士で声かけして防止に取り組んでいる。また定期的に職員向けに虐待についてのアンケートをとり、日頃のケアの意識付けになるよう取り組んでいる。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶことができるように研修計画を立て、内容を十分に理解できるように努める。必要がある方に対しては入居時に説明を行い、対応を要すると思われる場合は支援をしていく。</p>	<p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶことができるように研修計画を立て、内容を十分に理解できるように努める。必要がある方に対しては入居時に説明を行い、対応を要すると思われる場合は支援をしていく。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項を説明し、重度化や看取りについての対応や、医療連携体制加算についてなど詳しく説明している。又、入居者の方の状態変化により契約解除に至る場合は、本人・家族を交えて対応方針を相談している。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者には日々の中で意向を聞いたり、言葉や態度、表情などから思いを察するようにしている。また、運営推進会議にも参加して頂いている。ご家族には日頃の面会時や家族会に意見、要望を聞くようにしており、また玄関にご意見箱を設置し苦情等出しやすい配慮をしている。来所者名簿作成、職員紹介名簿を玄関先に提示してほしいとの要望が聞かれ、作成し設置している。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回両ユニット合同の全体会を開催し、運営に関する報告も含め、各ユニットで出された意見を協議している。申し送りノートを設置して意見を記入し、それについてミーティングを行い対処している。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>月1回の全体会を開催し、事業所の報告のみでなく各職員からの提案、意見を聞いている。それについてミーティングを行い対処している。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は常日頃から、管理者や職員との対話を心掛けている。職場にも出向き、利用者の方々と過ごしたり声掛けを行う事で、職員の業務を把握している。業務時間中の個別の休憩室の確保や、年1回の健康診断の実績、資格取得に対する協力支援など施設は最大限の努力をしている。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域にある「あじさいネットワーク」では、認知症を支えるプロジェクト講座等に参加し、勉強会や研修を通じて情報交換を行い、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っていく。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談時は、必ず本人と面会してどんな暮らしをしていたか等の要望や身体状況を確認して、その都度職員に伝え全員把握に努め、対応の統一を図っている。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族のプライバシーに配慮し、家族が今抱えているつらさや不安をよく聞き、安心感を与えるように努力し、家族のつながりが継続できるように支援している。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族の方と相談し、ご本人の思いや状況などを確認しサービスの内容を検討している。場合によっては、他事業所のサービスにつながる等の対応を行っている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>現在の能力を活かし、自分でできることは行ってもらい、職員は必要に応じて介助したり一緒に行うなど、共に生活する関係を築いている。</p>		

19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と緊密に連絡を取り、相談しながら支援してご家族に意識を積み重ねるようにし、必要に応じて相談・対談をすることで、支える関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで本人の馴染みのあるスーパーや美容院を利用することで、昔馴染みの人に会えるよう支援している。また、家族の面会時の情報から、馴染みの関係を把握するように心掛けている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は寄り添いをして、さり気なく仲介して解消している。歌やボール遊び、近辺の公園まで散歩を支援する中で、職員はお互いの伝えたいことを仲介している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居されたご利用者や、ご家族の方から連絡を取り、様子伺いをしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアの中で本人の思いや、どのような暮らしをしたいか、何を食べたいか等意向を聞くようにしている。また、担当者を決めて職員との信頼関係を強くすることで、思いを表現できない利用者に対しても、仕草や行動などから思いを察知できるよう努めている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に情報の大切さを伝え、生活歴の聞き取りをしている。さらに、入居された後もご家族にその都度、聞き取りをしている。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>出来ること出来ない事の把握、出来る可能性や心身の状態の把握に努めるようにし、「日々の記録」「申し送り」を通してご本人の現状を総合的に感じ取るようにしている。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスにて各職員からの情報を共有し、また利用者、ご家族の意向を聞き入れながら、多様な視点から協議し介護計画を作成している。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の介護記録には、小さな事でも変化を見逃さず記録している。バイタルや食事摂取・排泄状況及び言動等を分かり易く記入できる欄を設け、全員が要点把握がしやすく、モニタリング評価に活かしている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の都合により、突然の外出・外泊・訪問等があっても優先して対応し、本人や家族の満足感につなげている。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防訓練年2回実施し、心肺蘇生の研修等の協力が有り、地元町内会の行事に可能な限り参加させて頂いている。また、姫流太鼓演奏やギター演奏(音楽療法)のボランティアの方の訪問の機会を設けている。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関からかかりつけ医を選択しているが、できるだけ本人及びご家族の希望する医療機関を利用できるよう支援している。受診結果はカルテ、個人別の手帳に記載し、管理して職員間で共有している。</p>		

31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師1名配置し、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。(24時間対応)</p>			
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>ご家族と相談しながら医療機関へご本人に関する情報を提供し、医師との話し合いを持ち、事業所内での対応可能な段階で早く退院できるように、医療関係へのアプローチやご家族への支援をしている。</p>			
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に事業所で重度化及び看取りの指針に関する説明を行い、同意を得ている。ご家族の協力が前提であることを理解してもらい、常時医療行為が必要になる時には、時期の見極めに主治医等と相談・連携を図っている。</p>			
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を開催し、急変時や事故発生時の対応を全職員に周知徹底し、胸部圧迫法やAED講習を定期的にもホームにて取り組んでいる。</p>			
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回防災訓練を行っている。防災委員会を設置し、災害時の対応について話し合っている。</p>			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日常のケアにおいて、言葉、態度などで利用者に不快感を与えないよう職員に促している。排泄の声掛け、援助時にもプライバシーに配慮し、居室・トイレに入室の際には必ずノック、声掛けをしてから入室している。不在時にも扉を閉めて、プライバシーを確保している。</p>			

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いや希望を表し、自己決定できるよう働きかけている。思いを言えない利用者は、表情や全身での反応をキャッチしながら、本人の希望や好みを把握している。(自己決定の尊重)</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、お茶、基本的支援時間は決まっているが、その時間に摂取する必要はなく、本人のペースに合わせている。重度の方は外出が減少傾向だが、場所を選択し、外出、外食と楽しく充実した日々を過ごしている。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その日に着る物を本人の希望に応じて選んでもらったり、その人らしさを保てるように援助し、本人の馴染みの美容室を利用されている。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日々のケアの中から個々の嗜好などを把握しており、メニューの参考にしている。買い物・下ごしらえ・片付け等 残存機能を活かしながら、無理のない程度でできることを支援している。職員は同じテーブルで食事をし、共に楽しむことを大切にしている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分・食事の摂取量は個人記録シートに記録し、情報を共有し対応できるようにしている。その習慣や水分量の目標を1日1500 mlに決めて摂取してもらえるよう支援している。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>利用者の状態に応じて毎食後口腔ケアを行っている。自立されている方は声掛け、見守りをし出来ない部分を、職員が支援する。出来ない人には口腔ケアをしている。</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握し、排泄支援を行っており、失禁を減らしトイレでの排泄が習慣となるよう支援している。また、意思表示の困難な利用者については、個々の排泄のサインを見逃さず誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄パターンを記録し、便秘の方には繊維質の食材、イージーファイバー、夏場は麦茶をいつでも飲めるようにフロアに設置し、十分な水分補給や運動を取り入れたり、個々のプランに沿って自然に排便できるよう支援している。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>出来るだけ好きな時間で入浴できるように体制を整えている。入浴拒否される方については、気分転換等を促し気持ちよく入浴できるよう工夫をしている。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中の活動を無理のない程度に促し、生活リズムを整えている。寝つけない人には、温かい飲み物を進めながらお話をしたり、足の温浴をして眠って頂けるよう支援している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書を個別記録に保管している。服薬時は本人に手渡しして、きちんと服薬できているかの確認をしている。処方の変更があった場合は、特に状態変化の観察に努めている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に、日常において役割を持っていて、それが張り合いになっており、楽しめるリハビリ、歌などを行っている。天気の良い日には希望者を募り、ドライブ、外食、買い物と気晴らしができるよう支援している。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>公園までの散歩、馴染みのスーパー、地元の道の駅に出かけたり、個々の希望に沿って支援している。又、家族が面会に来られた時には、時間があれば一緒に外出の機会が取れるよう支援している。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の理解を得て、自分でお金を持っている方もいる。自分で管理できない入居者様は、グループホームで金銭管理し、買って頂きたい品物は自分で払ってもらう支援をしている。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば事務所の電話で対応している。気になる事が生じた利用者さんは、自ら手紙を書いたり、年賀状、暑中見舞いなど計画を立てて支援している。</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に合わせた室温設定とし、定期的に喚起したり湿度等にも配慮している。季節を感じられる飾り付けや生け花を置いたり、廊下には利用者が映った写真を貼ったり心地良く過ごせるようにしている。居間の仕切りを外しスペースを広くしており、利用者同士が懇談しくつろげるよう大きなソファを置いている。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂とリビングが一緒になっていて、いつでも誰でも集うことができるし、仲の良い友達同士で談話されている。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にはご家族と安全面について確認しつつ、本人の使用していた家具や、馴染みのある物品等持参してもらえよう働きかけている。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>便所に「トイレ」と大きな字で書き分かり易くしたり、日常時にも安心なスロープを設置したり、安心して気持ちよく生活して頂く工夫をしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)						
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○			2. 家族の2/3くらいと	
					3. 家族の1/3くらいと	
					4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○			2. 数日に1回程度	
					3. たまに	
					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
		○			2. 少しずつ増えている	
					3. あまり増えていない	
					4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが	
					3. 職員の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○			2. 利用者の2/3くらいが	
					3. 利用者の1/3くらいが	
					4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 家族等の2/3くらいが	
					3. 家族等の1/3くらいが	
					4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○				1. ほぼ全ての利用者が
						2. 利用者の2/3くらいが
						3. 利用者の1/3くらいが
						4. ほとんどいない